

令和2年10月19日付【建設通信新聞】

＜コロナ禍の新しい働き方など紹介＞

建コン協と水コン協 働き方改革セミナー

コロナ禍の新しい 働き方など紹介

建コン協と水コン協
働き方改革セミナー

建設コンサルタンツ協会の働き方改革推進特別本部（本部長・高野登会長）は、全国上下水道コンサルタンツ協会（村上雅亮会長）と東京都千代田区の都市センターホテル



で「建設コンサルタンツ 働き方改革セミナー」を開いた。写真。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からウェア配信を併用、会場とウェアあわせて約500人が参加・視聴した。

冒頭、建設コンサルタンツ協会の永治泰司総務部会長が開催趣旨を説明。コロナ感染拡大期の緊急事態宣言期間中に多くの企業がテレワークの実施に踏み切ったことに触れながら「やってみていろいろな課題も浮き彫りになった。自宅だけでなくサテライトオフィスも活用したテレワークを考える必要がある。時差出勤や短時間勤務なども含めた経験を踏まえて事例発表してもらおう。これを参考にしながら、それぞれの条件に適したより良い方向にもっていったほうがいい」と語った。

白河桃子相模女子大特任教

授が「働き方のパラダイムシフト コロナ時代の働き方・企業のあり方とは」と題して基調講演した後、建設技術研究所、オリエンタルコンサルタンツ、日本工営、パシフィックコンサルタンツ、長大、NJSの6社がコロナ禍での「新しい働き方」への取り組みを含め、多様で柔軟な働き方の実現に向けたさまざまな施策やこれに伴う業務効率の改善効果などを事例紹介した。